

県北鹿行

日立・ひたち医療センター

新病棟建設急ピッチ

来年完成へ 高度先進医療に期待

県北地域の中核医療機関として貢献する日立市鮎川町のひたち医療センター(安本和正院長)は、2015年の新病棟開設へ向け建設工事を急ピッチで進めている。新病棟完成に伴う高度先進医療の確保や安心・安全を提供する医療機関として、さらなる発展が期待されている。

同センターは、秦外科医院として1963年に開院。66年に救急医療告示医療機関に指定され約50年間、救急医療に尽力している。2013年9月には救急医療の実績などが県に認められ、公益性の高い医療機関として、県内初の「社会医療法人」に認定された。

新病棟は鉄筋コンクリート6階建て。病床数160床。診察室や各種検査室を1フロアに集約することで、救急搬送から緊急手術や各種検査に対応する最短動線を確保、患者の不安解消や医療従事者の負担軽減につなげていく。

社会医療法人は、救急車受け入れ台数が3年間で年平均750台以上を確保・維持しなくてはならず、同センターの昨年度受け入れ台数は1587台、うち夜間救急は1094台。本年度は3カ月間で418台、そのうち269台が夜間救急となっている。

安本院長は「安全な医療を最優先に、地域に信頼される病院、医療従事者の方々にも働きたいと感じてもらえる病院を目指していきたい」と話している。

(小室雅一)

ひたち医療センターの完成イメージ図

